

熊本大学大学院生命科学研究所 麻酔科学講座



教授
平田直之

令和四年四月一日付で、熊本大学大学院生命科学研究所麻酔科学講座教授に就任いたしました。

私は、長崎県佐世保市で生まれ育ち、長崎県内の高校を卒業後に熊本大学医学部に入學し、平成十二年に卒業しました。熊本大学卒業後、麻酔や救急集中治療を新たな環境で学んでみたいという思いから札幌医科大学麻酔科学講座に入局し、これまで二十二年間、北海道で麻酔科医療の診療・研究・教育に携わってまいりました。このたび、母校の教授を拝命したことを感慨深く感じております。

熊本大学麻酔科は、一九六五年に初代 森岡 亨教授のもと発足し、五十年以上の歴史を有する教室です。森岡教授、第二代・寺崎秀則教授は、現在のCOVID 診療でも注目を集めている

外式膜型人工肺 (ECMO) 研究の第一人者であり、呼吸不全患者への応用を世界に先駆けて行われました。第三代・山本達郎教授は、痛みに関する診療と研究を中心としたペインクリニック領域において、日本の麻酔科医療を牽引して来られました。このような熊本大学麻酔科の歴史と伝統を受け継ぎつつ、教室のさらなる発展を目指して第四代教授として日々精進して参ります。

麻酔科医療は、手術に臨む患者さんの苦痛を軽減し、術前・術中・術後(周術期)の安全を保つ全身管理を診療の基本としております。麻酔科医療と手術医療の安全性と質は向上し続けておりますが、最近の報告でも術後三十日の合併症発生率は、術中合併症発生率の数十倍以上とされており、術後および長期予後を見据えた周術期管理の重要性が高まっております。エビデンスに基づいた診療を実践するとともに、臨床研究や基礎研究を通じて、より安全で質の高い周術期管理に関するエビデンスを熊本から発信していきたいと考えております。

また、当科では麻酔科診療の応用として、様々な急性臓器障害を生じた患者さんに対して集学的治療を行う集中治療医学、慢性疼痛・がん性疼痛など痛みをお持ちの患者さんに対するペインクリニック・緩和医療を担っております。手術麻酔、集中治療医学、ペインクリニック・緩和医療を柱とした麻酔科医療を通じて社会に貢献することが麻酔科医の使命でありますが、多くの急性期病院では手術件数は増加の一途をたどっており、相対的な麻酔科医不足が全国的な問題となっております。麻酔科医療を担う人材育成、麻酔科医自身が使命感と誇りを持って職務にあたることのできる環境構築にも努めたいと思います。

熊本県における麻酔科医療の充実と発展に貢献できるよう尽力して参りますので、今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

